

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	企画振興部空港企画課	職	課長	氏名	白井 晴基
評価者	組織		職		氏名	

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	小松空港の国際化推進とポテンシャルを活かした物流拠点空港づくり	1 小松空港の利用者数(国内線・国際線(チャーター除く))	千人	2,667 H26	2,280 (H25)	(H26)	
		2 小松空港の貨物取扱量(輸入・輸出)	トン	33,000 H26	9,004 (H25)	(H26)	
施策2	能登空港の機能拡充と利活用の推進による地域拠点空港づくり	能登空港の利用者数(国内線)	千人	215 H26	150 (H25)	(H26)	

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価			
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性		
					(年度)	(年度)								
施策1	課題1 国内定期航空路線の維持・拡充	利用者数(チャーター便除く)	千人	2,526 H26	2,121 (H25)	(H26)	小松空港国内線利用促進事業	利用者、航空会社等	6,894					
							小松空港活性化事業	利用者、航空会社等	35,700					
	課題2 国際定期航空路線の維持・拡充	利用者数(チャーター便除く)	千人	141 H26	158 (H25)	(H26)	小松空港国際線利用促進事業	利用者、航空会社等	54,474					
							再掲 小松空港活性化事業	利用者、航空会社等	35,700					
							ソウル便の維持・拡充	利用者数	63 H26	35 (H25)	(H26)			
							上海便の維持・拡充	利用者数	42 H26	30 (H25)	(H26)			
	台北便の維持・拡充	利用者数	36 H26	93 (H25)	(H26)									
課題3 国際物流拠点化の推進	国際航空貨物取扱量	トン	33,000 H26	9,004 (H25)	(H26)	小松空港国際貨物利用促進事業	空港会社、フォワーダー、荷主等	19,600						
施策2	課題1 国内定期路線の維持・拡充	利用者数	千人	215 H26	150 (H25)	(H26)	能登空港需要拡大等強化事業	県内・首都圏利用者等	110,000					
							能登二次交通支援事業	県内・首都圏利用者等	2,710					
	課題2 国内定期路線の開設	路線数	路線	2 H26	1 (H25)	(H26)	再掲 能登空港需要拡大等強化事業	県内・首都圏利用者等	110,000					
							再掲 能登二次交通支援事業	県内・首都圏利用者等	2,710					

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	企画振興部空港企画課	職	課長	氏名	白井 晴基
評価者	組織		職		氏名	

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	小松空港の国際化推進とポテンシャルを活かした物流拠点空港づくり	1 小松空港の利用者数(国内線・国際線(チャーター除く))	千人	2,667 H26	2,280 (H25)	(H26)	
		2 小松空港の貨物取扱量(輸入・輸出)	トン	33,000 H26	9,004 (H25)	(H26)	
施策2	能登空港の機能拡充と利活用の推進による地域拠点空港づくり	能登空港の利用者数(国内線)	千人	215 H26	150 (H25)	(H26)	

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価	
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)						
	課題1 国内定期航空路線の維持・拡大	利用者数(チャーター除く)	千人	2,526	2,121		小松空港国内線利田促進事業	利用者、航	6,804			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 小松空港国内線利用促進事業	事業開始年度	H11	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作組	織	企画振興部空港企画課			
成職	氏名	主任企画員 今村 昌大			
者電	話番号	076 - 225 - 1337 内線 3734			

事業の背景・目的
 小松空港の国内路線の維持充実を図るため、羽田便をはじめとする各地への路線に加え、羽田空港での乗継などについて利用促進を実施するほか、「小松空港の概要」の作成等を行う。

- 事業の概要**
1. 事業主体 小松空港協議会
 2. 事業概要
 - (1) 羽田国内乗継利用促進事業
 - ①航空乗継利用促進協議会事業
 - ・航空会社と一層連携した乗継の周知及びキャンペーンの実施
 - ・各空港で利用可能な共通広報ツールの作成による乗継PR
 - ・商品造成に向けたファムツアー実施
 - ・乗継利用者対象の羽田空港ラウンジ無料キャンペーンの実施
 - ・公式ホームページ、Facebookでの情報発信
 - ・航空会社に対する合同要望
 - ②小松空港単独事業
 - ・先行的なモデル確立に向けた双方向での旅行商品造成・広報支援
 - ・広域エリアからの乗継インバウンド商品造成支援及びPR
 - ・乗継航空券と宿泊のセットを安価に購入できるインターネット予約システムの広報
 - (2) 羽田・成田国際乗継利用促進事業
 - ・国際線が拡大し利便性が向上する羽田空港・引き続き豊富な国際線ネットワークを持つ成田空港、双方での乗継のメリットを雑誌やTVを活用しPR
 - (3) 其他就航路線利用促進
 - ・県内外の旅行イベント等に出展し、航空会社と連携した各路線のPR及び観光需要の喚起
 - (4) 普及啓発・広報活動
 - ・「小松空港の概要」作成
 - ・空の日・空の旬間事業への協力

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	小松空港の国際化推進とポテンシャルを活かした物流拠点空港づくり				評価	
課題	国内定期航空路線の維持・拡充					
	指標	利用者数(チャーター便除く)			単位	千人
	目標値	現状値				
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	2,526	1,931	1,877	2,025	2,121	

事業費						
	(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費	予算	24,575	13,300	14,340	12,072	6,894
	決算	24,575	19,300	14,340	10,666	
一般	予算	20,575	9,300	10,340	12,072	6,894
財源	決算	20,575	15,300	10,340	6,666	
事業費累計		158,375	177,675	192,015	202,681	209,575

評価	
	項目 評価 左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 小松空港活性化事業	事業開始年度	H24	事業終了予定年度		作 組 織	企画振興部空港企画課
	根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	課長補佐 小泉 義樹
					者 電話番号	076 - 225 - 1337 内線 3725

事業の背景・目的
 平成24年3月に策定された「小松空港活性化アクションプラン」に基づき、具体的な取り組みを戦略的に実行に移すとともに、平成24年度に設置された小松空港活性化委員会において引き続き中・長期的な課題解決に取り組む。

- 事業の概要**
1. 事業主体 小松空港協議会
 2. 事業概要
 - (1) 航空ネットワークの維持・強化
 - ① 航空利用リピーターの利便性向上
 - ・ビジネスラウンジ利用による利便性向上
 - ・車での来港者向けのキャンペーン
 - ・レンタカー利用者向けのキャンペーン
 - ② 新規路線の誘致
 - ・タイとのチャーター便の運航支援
 - ③ 新幹線開業を見据えた旅行商品の造成支援
 - (2) 二次交通・情報発信対策
 - ・空港アクセスの改善・充実□
 - ・外国人団体の二次交通支援□
 - ・空港情報発信の強化□
 - (3) 空港ターミナルビル・周辺の賑わい拠点化
 - ・賑わい拠点化促進イベント・キャンペーン等の実施

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	小松空港の国際化推進とポテンシャルを活かした物流拠点空港づくり					評価
課題1	国内定期航空路線の維持・拡充					
指標	利用者数(チャーター便除く)				単位	千人
目標値	現状値					
平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
2,526	1,931	1,877	2,025	2,121		
課題2	国際定期航空路線の維持・拡充					
指標	利用者数(チャーター便除く)				単位	千人
目標値	現状値					
平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
141	108	115	144	158		
事業費						
(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費 予算			7,500	10,000	35,700	
一般 決算			7,500	10,000	35,700	
財源 予算			7,500	10,000	35,700	
事業費累計	0	0	7,500	17,500	53,200	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 小松空港国際線利用促進事業	事業開始年度 H5	事業終了予定年度	作成者 組織 空港企画課 職・氏名 課長補佐 土橋 順一 電話番号 076 - 225 - 1337 内線 3733
	根拠法令 ・計画等		

事業の背景・目的
小松空港発着の国際定期便及びチャーター便の運航支援と定期便の利用促進を図るとともに、乗客の利便性を高めることにより、小松空港の国際化を進める。

事業の概要
事業主体:小松空港協議会

(1) 国際定期便運航支援事業
① CIQ業務の円滑化支援
 出入国審査及び検疫業務の円滑化のための支援(補助要員の派遣)
 ② 外国語インフォメーション設置 等

(2) 国際定期便利用国際交流促進助成事業
国際定期便を利用して国際交流を行う団体に対する助成
交付額:1団体1回10万円限度

(3) 国際定期便利用促進事業
① パンフレット、ポスター作成
② テレビ、新聞等マスメディアを利用した広報
③ 航空会社等訪問

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	小松空港の国際化推進とポテンシャルを活かした物流拠点空港づくり					評価
課題	国際定期航空路線の維持・拡充					
指標	利用者数(チャーター便除く)				単位	千人
目標値	現状値					
平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
141	108	115	144	158		
事業費						
(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費	予算	40,590	49,953	76,330	49,874	54,474
	決算	40,590	49,953	76,330	53,874	
一般	予算	40,590	49,953	76,330	49,874	54,474
	決算	40,590	49,953	76,330	53,874	
財源	決算	40,590	49,953	76,330	53,874	
事業費累計		504,026	553,979	630,309	684,183	738,657
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 小松空港国際貨物利用促進事業	事業開始年度	H7	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			

作組	織	空港企画課
成職	氏名	主事 宮本 達矢
者	電話番号	076 - 225 - 1338 内線 3739

事業の背景・目的
 小松空港の国際物流拠点化を図るため、上屋会社である北陸国際航空貨物ターミナル(株) (以下、「HIACT」と表記)や航空会社とも連携して、フォワーダーや荷主に対して、小松空港利用を呼びかけ、小松空港の国際航空貨物取扱量の増加を図る。

- 事業の概要**
1. 国際航空貨物の利用促進(小松空港協議会)
 - ①フォワーダー・荷主への周知・PRの強化
 - ・長尺貨物を運べる貨物専用機の強みを活かしたCV利用の促進
 - ・「国際物流総合展2014」(東京)等への出展
 - ・ジェットロと連携した小松空港海外市場開拓セミナーの実施
 - ②小松空港集荷助成
 - ・フォワーダー向け集荷助成
 - ・荷主向け輸出助成金
 - ・通関量増加対策助成
 - ③小松空港利便性向上に向けた働きかけ
 2. ルクセンブルクとの交流強化(小松空港協議会)
 - ①カーゴルックス小松空港就航20周年記念事業
 - ②小松空港国際化推進対策事業
 3. 新規事業開拓助成(HIACT)
 HIACTが新たな荷主やフォワーダーを開拓し、貨物取扱量の増大を進める取組を支援
 4. 貨物保管料の軽減対策支援(HIACT)
 輸入貨物の小松通関する際に発生する貨物保管料を他空港と同等な扱いをすることで、小松通関貨物の増大を図ることとし、軽減措置における減収分を補填

これまでの見直し状況
 平成19年度、三大フォワーダーが小松空港に進出したことから、フォワーダー誘致支援を廃止
 平成24年度、フォワーダー向け集荷助成を新設

施策・課題の状況							
施策	小松空港の国際化推進とポテンシャルを活かした物流拠点空港づくり					評価	
課題	国際物流拠点化の推進						
	指標	貨物取扱量(国内貨物を除く)				単位	トン
	目標値	現状値					
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	33,000	16,198	16,140	11,584	9,004		
事業費							
	(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費	予算	27,850	26,150	26,190	33,090	19,600	
	決算	27,850	26,150	24,188	19,690		
一般	予算	27,850	26,150	26,190	33,090	19,600	
財源	決算	27,850	26,150	24,188	19,690		
事業費累計		372,142	398,292	422,480	442,170	461,770	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

事務事業シート(行政経営シート)

事務事業名 能登空港需要拡大等強化事業	事業開始年度	H13	事業終了予定年度		作 組 織 企画振興部空港企画課
	根拠法令				成 職・氏名 主任企画員 林 雅紀
	計画等				者 電 話 番 号 076 - 225 - 1336 内線 3735

事業の背景・目的
 能登空港の安定的な需要の確保に向けて、北陸新幹線の金沢開業も見据え、首都圏からの誘客活動を推進するとともに、地元市町や関係団体と一体となって、マイ空港意識の向上を図りながら地元利用の促進に取り組む。

事業の概要
【11年目の利用促進への取組み】
 1 定期観光バスを活用したモニターツアーの実施等
 ・金沢駅～能登空港の定期観光バスの実証実験を拡充
 ・旅行会社やプレス等向けのモニターツアーを実施
 ・金沢～能登の周遊観光のPR
 2 丸の内朝大学を活用した外国人誘客策の展開
 ・首都圏在留外国人をターゲットとして、朝大学で新たな講座を開講
 ・朝大学と地元との連携により、誘客策を企画立案
 ・外国人向けモニターツアーを実施（H25朝大学で開発した体験メニューを活用）
 3 愛称の活用によるPR
 ・愛称記念キャンペーンの実施、販売促進グッズの制作など

【継続した取組み】
 1 首都圏への広報、旅行商品販売支援など
 ・旅行商品の販売支援
 ・ぶらり能登キャンペーン
 ・メディア・HPを活用した情報発信
 ・福利厚生サービス会社と連携した販売促進
 ・能登空港応援隊による誘客活動
 ・出向宣伝・グッズ製作等
 ・空港利用者アンケート
 2 団体利用の促進、賑わい創出事業など
 ・能登空港利用企画会議を通じた団体旅行の働きかけ
 ・能登との交流を目的とした団体への助成
 ・賑わい創出イベントの開催

これまでの見直し状況
 ①空港を核とした能登地域の振興を目的に、人・ものなどの交流拡大を図るため、実効性のある施策を検証したうえで展開していると共に、新幹線開業を見据えた取組も行っている。
 ②県民意識の高揚を図るため、空港の賑わい創出についても地元団体と連携のうえ取り組んでいる。

施策・課題の状況						
施策	能登空港の機能拡充と利活用の推進による地域拠点空港づくり					評価
課題1	国内定期路線の維持・拡充					
指標	利用者数				単位	千人
目標値	現状値					
平成26年	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
215	143	139	151	150		
課題2	国内定期路線開設					
指標	路線数				単位	路線
目標値	現状値					
平成26年	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
2	1	1	1	1	1	
事業費						
(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費	予算	103,000	122,450	123,000	110,000	110,000
	決算	103,000	122,450	123,000	110,000	
一般	予算	103,000	122,450	123,000	110,000	110,000
	決算	103,000	122,450	123,000	110,000	
事業費累計	1,251,665	1,374,115	1,497,115	1,607,115	1,717,115	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性						
(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性						
(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名: 能登空港二次交通支援事業	事業開始年度: H17	事業終了予定年度:	作 組 織: 空港企画課
	根拠法令 ・計画等		成 職・氏名: 主任企画員 菅田 虎次郎 者 電話番号: 076 - 225 - 1336 内線 3724

1 事業の背景及び目的

能登空港の二次交通対策として、能登空港ふるさとタクシーへの運行支援を行う。

2 内容及び事業費

事業主体: 能登空港利用促進協議会

事業名 能登空港二次交通支援事業費補助金

県、市町、民間が等分の負担により赤字補填を行い、運行維持を図っていくことで能登空港の利用促進につなげる。

(能登空港ふるさとタクシー)
能登・羽田便の運航ダイヤに合わせ、空港利用者を送迎する相乗りジャンボタクシー
能登空港開港時から平成17年3月まで実証実験として運行(国庫補助対象事業)
平成17年4月より本格運行(県単独事業)

これまでの見直し状況

- 平成17年10月に、事業の持続性を高めるため、利用実態等を勘案のうえ、運行内容(エリア、料金)の見直しを実施。
- 平成19年度より事業の収支改善を図るため、運行事業者に対する運行委託費の見直しを実施。
- 平成23年度の運行事業者の選定について、競争入札制度を導入し、収支採算性の向上を図った。
- 平成24年度の運行事業者の選定について、サービス内容の確認や業務改善につながる提案を求めするなど企画提案方式を採用した。
- 平成24年7月より利用者の一層の利便性の向上を図るため運行ゾーンの見直しと運賃改訂を行った。

施策・課題の状況						
施策	能登空港の機能拡充と利活用の推進による地域拠点空港づくり					評価
課題1	国内定期路線の維持・拡充					
指標	利用者数				単位	千人
目標値	現状値					
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	215	143	139	151	150	
課題2	国内定期路線開設					
指標	路線数				単位	路線
目標値	現状値					
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	2	1	1	1	1	
事業費						
(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費	予算	3,000	2,710	2,710	2,710	2,710
	決算	3,000	2,710	2,574	2,710	
一般	予算	3,000	2,710	2,710	2,710	2,710
財源	決算	3,000	2,710	2,574	2,710	
事業費累計		16,215	18,925	21,499	24,209	26,919
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						